

# はみじやぱん 協道コロム 「エコ」と「おしゃれ」のはざま

どうも、マイナーオブごみじゃぱん、はまえりです。  
このコーナーは、超絶ファッションギークな私が、独断と偏見でエコとおしゃれについてばやく活字カフェとなっております。目標は減装通信で巻頭カラーグラビアを乗っ取ることです。

## 記念すべき第1回目のテーマは 「エコバッグはただのバッグ？」

最初に身近なエコとして定着したのは「エコバッグ」ですよ。若い女の子は当たり前の様にエコバッグを持っています。これは本来、いらぬ袋を断わるためのもの。彼女たちは本当にエコバッグをエコとして使っているのでしょうか。

今ではDEAN&DELUCA、Cher、milk fedなど、こそぞておしゃれブランドがエコバッグを発売しています。



これらのエコバッグを持っている人が街の至る所にいるわけですが、これって「流行ってるし、可愛いブランドが

安い値段で出しているから」持っている人が多いのではないのでしょうか。実際、中に「買い物袋を断って買ったもの」が入っているかは微妙です。まずサイズが小さすぎます。これでは「エコ」が抜けたただの「バッグ」です。

こんな調子だと企業の「エコ」をうたった販売戦略に引っ掛かっているようなもの。本来買い物袋を減らすためなのに、エコバッグがどんどん増えて本末転倒です。

「でも可愛いほしいし」というそのあなた、おしゃれで環境に配慮した生活を今一度見直してみましょう。

私が思うに、「エコバッグ」と名のついたものをわざわざ買う必要はないのです。家の中に余っていませんか？

ショップ袋。充分可愛いデザインのものがあるのですから、エコバッグを買う前に、家の中に使えそうなものがないか探してみましょう。

その他スーパーの黄色い袋は古着と組み合わせたらアヴァンギャルドで素敵かも。ふるしきは大正モダン柄でおしゃれに。モテたい男子、長ネギの一本や二本、素手で持つ勇気を持ちましょう。いつの時代も野性的な人は魅力的なのです。

とまあ、わざわざ買わなくても、自分なりのエコは可能なのです。自分なりのおしゃれでこだわりのあるエコライフを考えてみませんか？

### Gomi-jp Members 01



**小林 真彩美** (神戸大学経済学部4年生)  
ごみじゃぱんに入っすごく楽しいと思う瞬間は、話をしていくうちに「こういう買い物をするだけでいいの？ それならやってみる」と生活者の方の表情が変わる瞬間です。才能溢れるメンバーを指揮して、素敵な通信をお届けできるように今年1年間頑張ります。

### Gomi-jp Members 02



**上山 亮久** (神戸大学経済学部4年生)  
日々の糖分摂取がインスピレーションの源。『ごみじゃぱん』のロゴデザインが大好き！いつか自分もプロから技術を教わり、アートディレクターとして活躍するのが夢です。僕達の活動が少しでも多くの人達の目に留まるよう、広報活動に全力を注いでいきます。

### Gomi-jp Members 03



**高岡 綾乃** (神戸大学経済学部4年生)  
ごみじゃぱんの良さって「環境に良いことが自分にとっても得なタイミングを教える」ところだと思ふんです。でも、環境って言うだけで「面倒」って引かれたり…真のメリットって伝わってないと感じます。少しでも多くの人に理解してもらえよう頑張ります！

できるだけ、ごみをつくらない生活へ。

# 減装通信

vol. 1  
2010/Summer  
ニッポンのごみを減らそう!!  
Gomi-jp

はじめるんです。  
私たちはごみじゃぱんです。



<http://gomi-jp.com/>

## 発刊にあたって

「ごみじゃぱん」と聞いて、皆さんはどんなことを思い浮かべてくださるでしょうか。容器包装？ 学生？ 青いTシャツ？・・・どれも正解です!! しかし、私達はそれだけではありません。店頭POPにとどまらない私たちの様々な学校内外でのアプローチや、また活動中の素颜や本音を、より広く、そして分かりやすく、私たちに関わってくださっている皆さんにお伝えするべく、この『減装通信』はここに誕生しました。ごみじゃぱんの中でも、みなさんがまだ知らない一面にぐいぐい迫ります。

## ごみじゃぱんとは？

「ごみじゃぱん(ひらがなです! 笑)」は、神戸大学の石川雅紀教授、小島理沙事務局長、約30名のアツイ学生と約20名のキャラの濃い社会人が中心となり、『産官学民で無理なくごみを減らせる社会づくり』を目指し2006年に設立されたNPO法人です。私たち、ごみじゃぱんは、家庭から排出されるごみの大部分を占める容器包装ごみに着目して、容器包装の少ない商品を『減装(へらそう)商品』と認定し、メーカー・流通・生活者とともに、『減装商品』を推奨することで、ふだんのお買い物を通じて無理なくごみを減らせる運動『減装(へらそう)ショッピング』を展開しています。2007年に六甲アイランドで実験をスタートさせたのを皮切りに、徐々に規模を拡大し、現在ではジャスコつくしが丘店さん、コープこうべシーアさん、ダイエー甲南店さんが『減装ショッピング』の実施店舗として協力いただき、実験の真っ最中です。昨年11月13日から1年間の期間で、『減装商品』のPRイベントなどを行いながら、『減装ショッピング』の全国展開に向けて、ごみの発生抑制を目指し活動していきます!

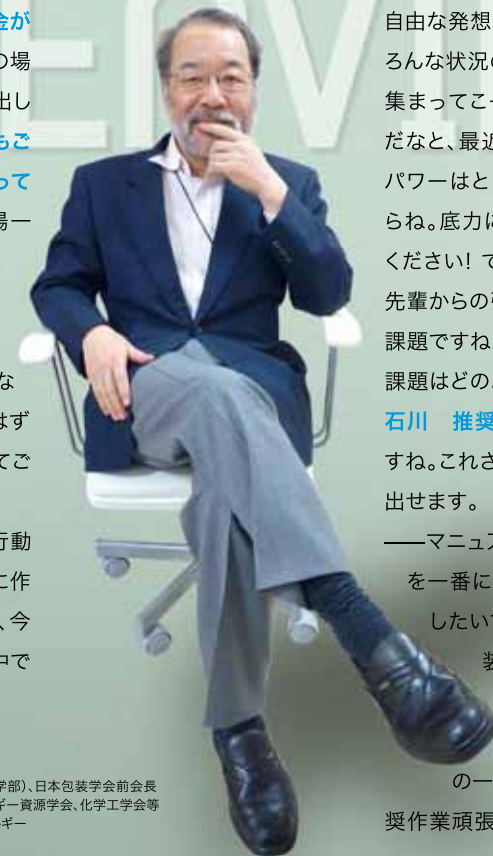
## ごみじゃぱんは、なぜ生まれたのですか？

—今では学生も5期生を迎えて、全国展開も視野に入れた活動となってきているごみじゃぱんですが、設立の背景を教えてください。

石川 ごみじゃぱん誕生の背景は、15年報告書委員会から【簡易包装ラベル作り】の依頼をされたことが始まりです。会議を重ねる中で、『**本当の生活者の意見が欲しい!**』と強く思うようになり、グループインタビューを実施しました。そのときにある決定的事実を見つけたのです。それは『**環境に熱心な人も、購入段階でごみのことを考えていない**』ということです。分別やリサイクルに対して重苦しいイメージをみなさん感じていて、環境に熱心な人も、正義感からやっていただけ。その事実が判明した反面、簡易包装の実物を提示し、これをみなさんが選ぶことによって**税金が5,000億円浮く**という話をすると、その場の全員が簡易包装を購入すると言い出したのには驚きました。だって、当時**誰もごみの分別などを自ら望み、楽しんでやっていなかった**のですよ。それなのに満場一致の結果だったのです。ということは、生活者に『これは簡易包装ですよ』と教えてあげさえすれば、そちらを買うということじゃないですか。しかし、単なる意識調査では企業側が受け入れるはずがない。**これは実験しかない**。こうしてごみじゃぱんの原型が生まれたのです。

—ごみじゃぱんは生活者の意識と行動を証明するために、まさに実験のために作られた団体だったのですね。今みんな、今回の実験に必死で取り組んでいる最中で

生活者の意識と行動の一致を実証する社会実験のためです。



石川 雅紀(いしかわまさのぶ)

特定非営利活動法人ごみじゃぱん 代表

神戸大学大学院経済学研究科 教授、工学博士(東京大学工学部)、日本包装学会前会長【所属学会】環境経済・政策学会、日本包装学会、日本エネルギー資源学会、化学工学会等【研究分野】環境経済システム分析、LCA、リサイクル、省エネルギー

ですので、これぞ真の姿ですね。今私たちはこうして当たり前のようにごみじゃぱんに参加していますが、社会人の方々の間で進んでいた話の中に、メンバーとして学生が入ることになったのはどういう経緯からですか。

石川 一番は学生のフレッシュさや勢いですね。大学生という期間限定の中で活動しますから、当然メンバーが周期的に入れ替わります。**その更新されるフレッシュさ、学生の底知れないパワーというのが一番の期待**でした。何もかもが初めての1期生は大変でしたけどね。

—フレッシュさですね、それは私も実感しています。少し前に後輩が入ってきてくれたのですが、まだごみじゃぱんにつけていない状況だからこそ出てくる新しい、自由な発想がたくさんあるんですね。いろんな状況の多様な価値観を持った人が集まってこそいいアイデアが生まれるんだと、最近よく実感しています。学生のパワーはときにすごい力を発揮しますからね。底力には自信のある私達にお任せください! でも、フレッシュさの裏にある、先輩からの引き継ぎの強化は今後学生の課題ですね。ごみじゃぱんとしての今後の課題はどのようにお考えですか。

石川 **推奨作業の徹底化**、これに尽きますね。これさえ解決できれば、全国に動き出せます。

—マニュアルなども作成中ですし、これを一番に解決させて早く全国へ踏み出したいですね。日本中、何処にでも減装商品のマークがついている。そんな身近な存在として早く世に浸透させるために、その一歩として、明日からも地道な推奨作業頑張ります。